

ホキキス
vol.28



2012年9月13日(木)～16日(日) シアタートラム

作・演出 柴山和仁

グライムス 百万馬力

ホチキス

vol.28

作・演出 米山和仁

こいつらに騙されるな。

CAST

加藤 敦 山崎 雅志
小玉 久仁子 齊藤 美和子
山本 洋輔 村上 直子

(以上ホチキス)

ザン ヨウコ 齋藤 陽介
神戸 アキコ(ぬいぐるみハンター)
松本 理史(ぶろだくしょんバオバブ)

annie

飯塚 美雪(劇団やぶさか)

井場 景子(東京オレンジ)

今井 夢子(椿組)

上松 みづほ

内山 拓磨(ジャスティス)

大野 清志(X-QUEST)

緒川 真生

小沢 道成(虚構の劇団)

加藤 隆浩

川畑 舞香

小太刀 賢(劇団ロンドン坊や)

小寺 悠介

坂口 アミ(TIproject)

田中 正伸

辻 貴大(カムキヤッセン)

浜田 えり子

藤田 未来

宮崎 雄真

結

李 そじん

欲望渦巻く街、裏唐町(うらからちょう)。

表向きは巨大な歓楽街、しかし裏の顔は、

マフィア達が牛耳る暗黒街。

今夜も起こる小競り合い、

負け犬達の起死回生の大勝負がはじまる！

これが、ホチキスのハードボイルド!!

協力

イマジネーション カムキヤッセン
サードステージ (佛)ジャスティス
東京オレンジ 椿組 ぬいぐるみハンター
ぶろだくしょんバオバブ
フォセット・コンシェルジュ
マルバソ事務所 紫ベビードール
劇団ロンドン坊や BARKinSTYLE
krei.inc TIproject X-QUEST
(順不同)

STAFF

舞台監督：上嶋 倫子

照明：工藤 雅弘(Fantasia?ish)

音響：田島 誠治(Sound Gimmick)

美術：伊東 龍彦

作曲：喜多形 寛丈

衣装：谷野 留美子

カバーイラスト：小玉 久仁子

宣伝美術：辻井 宏之(CPU)

プリンティングディレクター：在本 剛

印刷：スタイルプリンティング

制作協力：林みく(Karte)

企画・製作：ホチキス

TICKET

チケット発売日(一般)：2012年8月4日(土)10:00～

チケット取り扱い

ホチキス	P C http://www.hotchkiss.jp/
世田谷パブリックシアター チケットセンター	P C http://setagaya-pt.jp/ 携帯 http://setagaya-pt.jp/m Tel 03-5432-1515(10:00～19:00)

公演タイムテーブル

2012年9月-----

13日(木) 19:30～

14日(金) 14:00～ 19:30～

15日(土) 14:00～ 19:00～

16日(日) 12:00～ 16:00～

開場は開演の30分前、
受付開始は開演の
1時間前。未就学児童
は入場不可とさせて
頂きます。開演時間
を過ぎますと、本来の
お席にご案内出来な
い場合がございます。
ご了承ください。

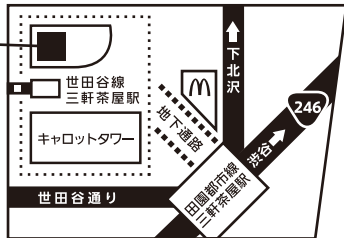
料 金 一般前売：3,800円 学生(当日・前売共通)：2,000円
【全席指定】 一般当日：4,000円

問い合わせ 090-5452-9890(劇団) hotchkiss@ka-r-te.net
〒161-0032 新宿区中落合 1-1-7-102 オフィス Karte 内ホチキス制作部

シアタートラム

〒154-0004 東京都世田谷区
太子堂4-1-1 キャロットタワー
TEL：03-5432-1526
◎東急田園都市線 三軒茶屋駅
より徒歩2分
◎世田谷線 三軒茶屋駅となり

車椅子スペースのご案内(定員あり・要予約)
料金：一般料金より10%割引(付添者は1名まで無料)
申込：ご希望日の前日までに 03-5432-1515
(世田谷パブリックシアターチケットセンター)へ



託児サービスのご案内(定員あり・要予約)
料金 2,000円 対象：生後6ヶ月以上9歳未満(障がいのある
お子様についてはご相談ください) 申込：ご希望日の3日前
の正午までに 03-5432-1526(世田谷パブリックシアター)へ

ヨネ話「15周年らしい」 1997年の8月29日に、ホチキスは旗揚げをした。今から15年も前だ。15周年らしい。まったく気づかなかった。パンフレットの打ち合わせをしていて、アートディレクターに、コンセプトを出せと言われたが、台本もあがっていないのにコンセプトなんて出せるかと、なんか勝手に○○記念とかつくってやろうとなり、調べてみたら15周年だった。15年、いろんな劇場で、いろんなお芝居をつくった。岐阜の劇場では、前金の納金と共に契約書を書かなければいけない期限の日、大雪が降り、死ぬ思いで劇場に着いたら、劇場担当者が雪で休みをとり、泣きそうになった。名古屋のある劇場に契約書を書きに行った時は、痔の手術の経過が思わしくなく、手術痕(尻の穴)にメスをいれ、傷口を少し開くなんていうよくわからない処置を施された、その足で劇場へ、いすに座れずに、立ったまま契約書を書いた。東京のある劇場では契約書をなくしてしまい、けっこう大変なことになったりもした。契約の話ばかりだが、私は劇場が大好きだ。最近3D映画が数を増やしてきて、望んでもいないのに、メガネを買わされ、必死に臨場感と奥行きをアピールする映像を見せられるが、所詮は目の錯覚だ。目の前で役者が自分のために演技をしてくれる賢沢には到底かなわない。しかもそこで放たれた音楽は、客席の後ろで音響屋さんの渾身のタイミングで放たれた曲であり、彩る照明は、照明屋さんの珠玉のフェーダー上げ下げなわけ。舞台美術の、ペンキでつくりだされた、小さな汚しは、つい30分前に美術屋さんにつけられたかもしれない汚しだ。賢沢だ。劇場で、目の前で繰り広げられる劇空間は、とても賢沢だ。だから私は芝居が好きで、芝居をつくるのがやめられない。このチラシのキャスト欄の名前の数をみて、多すぎやしないかと思う人もいるかもしれない。しかし、目の前で30人を超える人間が、ライブで芝居をする。とても賢沢ではないか。15周年にふさわしいではないか。ぜひ、この賢沢な劇空間を見に来てほしい。劇場の話に戻るが、このシアタートラムは、私にとって特別な劇場である。大学を卒業して上京した私は、劇作家協会が主催する劇作家講習を受講したことがある。その教室があったのが、シアタートラムがあるキャロットタワーだった。そして講習の初日、前年度に劇作家協会の新人賞を受賞した作品をリーディングするから、受講生はみな聞きなさいという催しがあり、初めて入ったのがこのシアタートラムであった。100人以下の小劇場は何度か入った経験はあったが、200人クラスの劇場は東京では初めてで、どきどきしていた。そこで読まれた戯曲は、非常に官能的な演目で、「ペ○ス」「ヴァ○ナ」「あへ、あへ」の応酬だった。さすが東京の劇場だ。私はうちのめされた。今私は、最高に信頼できる出演者達、そして最強のスタッフ達とこの劇場に挑む。とりえず、あの時観たドラマリーディングの演目よりも多く「○○○」って言う。さらに、15年後はもっと「○○○○」って言うてよう。

ホチキス代表 米山 和仁

グライムス
百万馬力